

401) うたた寝

この世にうたた寝ほど気持ちのいいものはないのでありますが、あるときちょっと趣味の革細工なんぞしているときに急に眠くなってしまい、ついその場所でうたた寝をしてしまった。ベッドにいて寝れば良かったのだが、うたた寝というものは寝る準備をしているうちに眠気が醒めてしまうもので、ほんの10分か20分、爆睡するところに気持ち良さがあるものなのであります。ところがよほど疲れていたのか、かれこれ小1時間も眠ってしまいまして、起きてみるとどういいうわげが頭が何かに固定されてしまって全く動かないのであります。おかしいなと思って少し動かすと髪の毛が抜けそうなほど痛くて、やむなく女房殿を呼んで、一体どうなっているのかを見てもらおうと、小生は何と工作道具として用意した接着剤を枕にして寝ていたらしくて、これが床について固まっていたのであります。やむなくハサミとカッターナイフで、女房殿に髪の毛のほうを切ってもらったのでありますが、虎刈りになったことは言うまでもありません。結局床屋に行ってその部分は少し目立たなく修整してもらったのでありますが、ほとんど角刈りオジさんになってしまって、女房殿にはヤクザのオッさんみたいだと散々馬鹿にされたのであります。でも会社での評判は悪くなく、精悍になったとの意見もあって、でもこれはやはりお世辞というものなのではないでしょうか。